

おたふくかぜ



おたふくかぜ(流行性耳下腺炎・ムンプス)ってどんな病気?

おたふくかぜの主な症状は、耳の下、頬の後ろ側、あごの下など耳下腺部または顎下腺部の腫れです。両側が腫れることが多いですが、片方だけのこともあります。おたふくかぜは、低年齢ほど症状の出ない不顕性感染が多いと言われていますが、他の人への感染力を持っているので、定期的には大流行しています。合併症として無菌性髄膜炎や難聴(ムンプス難聴)を起こすことがあります。最近の調査でムンプス難聴は、おたふくかぜにかかった1,000人に1人に起こるともいわれています。また、思春期および成人男子がかかると睾丸炎を起こすこともあります。

また、耳やあごの下の腫れがはじまった後5日を経過して、かつ全身状態が良好になるまで登園登校はできません(ただし、病状により医師が感染のおそれがないと認めたときを除きます)。

おたふくかぜに対する治療法は現在ありません。特にムンプス難聴はかかってしまうと治すことができません。ワクチンによる予防が推奨されています。



接種を受ける時期と間隔は? (注)

●対象者

1歳を過ぎたら、年齢と関係なく接種を受けることができます。低年齢児で流行するので、保育所、幼稚園等の集団生活に入る前には接種をするのがよいでしょう。

●回数

1回の皮下注射

(注)

日本小児科学会では、2回接種を推奨しています(1回目:1歳過ぎたら早期に、2回目:小学校就学前(5~6歳))。詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。

おたふくかぜワクチンの副反応は?

●接種2~3週間後に耳の下が軽く腫れたり、微熱がみられることがあります。約1,000~2,000人に1人は無菌性髄膜炎にかかることがあります。自然感染した場合と比べればとても少ない頻度です。

●局所反応として一過性の発赤、腫れ、全身症状として発熱、耳下腺が腫れる、嘔吐、咳、鼻汁などの症状がみられることがあります。



●接種日

